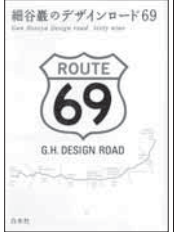


無名性を背負った表現者

「細谷巖のデザインロード69」
細谷巖 著



本書はデザイン業界の名門、ライトパブリシティの第一人者、わが国のデザイン史の歴史と発展を共有しながら生きた半生をつづる、書き下ろし自伝風エッセイである。

「一九五一年に設立された広告制作の専門家集団。かつて和田誠、田中一光、篠山紀信、山下勇三なども在職し、お互いの力を削りあいながら表現の可能性を探っていたことはよく知られている。」

今年の五月から六月にかけてはじめて開いた大がかりな作品展は大きな反響を呼び、改めて著者の人気と健在ぶりをアピールすることになった。



「熱狂と挫折」の近現代史

「北アフリカ・イスラーム主義運動の歴史」
私市正年 著

「イスラーム主義運動の歴史」は、一九七〇年代に台頭し、八〇年代にはイスラーム世界全体で熱狂的な支持を得たにも関わらず、九〇年代後半にテロリズムに溺れて挫折してしまつた。

「イスラーム主義運動の歴史」は、第一部で近代のイスラーム政治運動、第二部で現代のイスラーム主義運動を、第三部でイスラーム主義運動の熱狂と挫折の過程を、非常に詳しく論じている。



人間フランチェスコの魅力を描く

「マッジのフランチェスコ」ひとの人間の生涯
キアラ・フルゴリー 著

「フランチェスコ」とは二一八一年頃、中部イタリアのアッシジの裕福な商人の家に生まれた。若き日のフランチェスコは教会や遊びに明け暮れる陽気な青年だったが、ある日、夢の中で啓示を受け、信仰にめざめる。

「フランチェスコ」とは二一八一年頃、中部イタリアのアッシジの裕福な商人の家に生まれた。若き日のフランチェスコは教会や遊びに明け暮れる陽気な青年だったが、ある日、夢の中で啓示を受け、信仰にめざめる。

知られざる歌の曼陀羅

「民謡秘宝紀行」
齋藤 完 著



著者がかつてトルコ留学の際に働いていた民謡酒場では、鼻血が流れるほどの熱狂で老若男女が民謡を歌っていたという。

災害弱者たちが得た絆

「あの日、突然遺族になった」阪神大震災の十年
内田洋 著

あの日から十年。戦後最悪の惨事となった震災だったが、被害の激しいとすると、意外なほど被災は局所的だった。

ツリーをなぜ飾るの？

「クリスマスの文化史」
若林ひとみ 著



師走ともなれば街はクリスマス色でジャングルベルが流れ、ツリーが立ち、にぎわい。しかし、こんな見慣れた風景の歴史的背景や来歴を、私たちはどれだけ知っているのだろうか。

音楽の時間

吉田秀和全集 全24巻

19巻から始まった「音楽の時間」の完結巻。『今日の一枚』は、レコード芸術誌連載の最終号まで。朝日新聞に毎月寄稿の「音楽展望」は二〇〇三年十一月までのエッセイを収録。

半世紀に及ぶ偉業の集大成、ついに完結！

吉田秀和全集 全24巻

究極のディスク評33冊に加えて、23巻までに未収録の小品数十篇で構成。他に丸山眞男との対談、水戸芸術館について二篇、亡妻バルバラに捧げる追悼記など。

